

徳島の社寺建築と 佐那河内

～阿波学会社寺建築調査からみえてきたもの～

阿波学会 社寺建築班

(有)真建築都市研究室

代表取締役 中野真弘

徳島大学工学部非常勤講師



■はじめに

◆社寺建築班（郷土建築研究会）は、徳島県内それぞれの市町村の地元に残る神社やお寺、お堂など

調査対象は

神社：鳥居・灯籠・狛犬・拝殿・幣殿・本殿・摂社・地鎮塔・農村舞台など

寺院：山門・本堂・各堂・手水舎・鐘楼・庫裡・鎮守堂など

お堂やお庵など

■はじめに

◆その目的は

地元の人々のよりどころとして、大事にされてきた社寺建築はその地域の歴史を知る有用な手掛かりであり、古い建造物からその地域の文化的特徴を知ることです。

◆調査手法

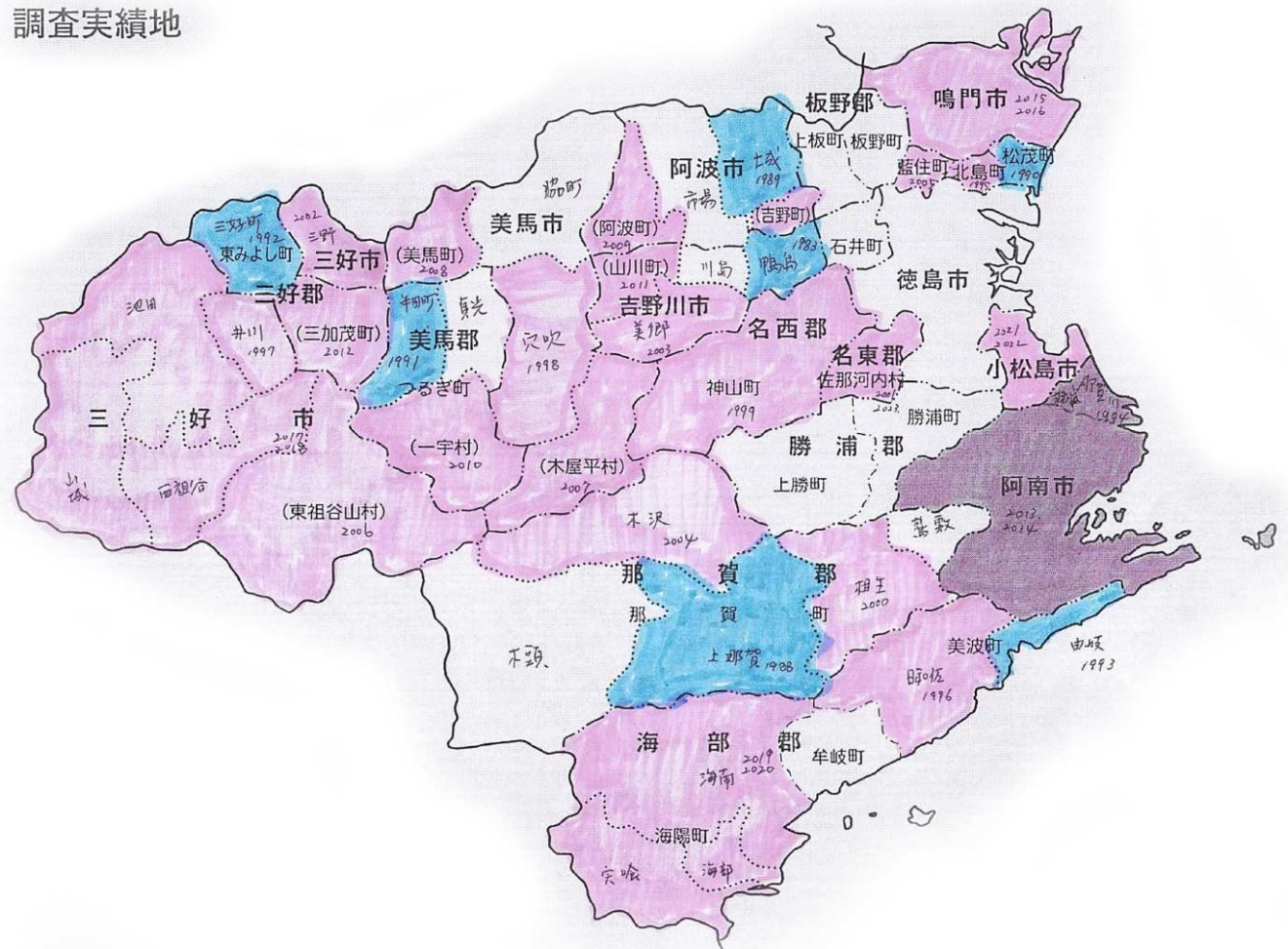
事前準備→現地調査（調査表・写真）

→詳細調査（平面図・写真・所見）

調査可能な範囲で、現地調査を行う。

■はじめに

調査実績地



これまでの調査実施地
ピンク 悉皆調査済
青 調査済(非悉皆)
白 未調査

阿波学会社寺建築班

(郷土建築研究会) は、

昭和58年(1983)鴨島町から地元に残る神社やお寺、お堂などを建築学的見地から調べ、地域的な特徴を探ってきました。

調査実施地での悉皆調査は、昭和63年(1988)旧上那賀町から始まり続けています。

■はじめに

すべてを調査・確認できているわけではありません。

拝殿内部に安置され、確認できなかった神社本殿が多く、
まだ他にも、すばらしいものがあるかもしれません。

今回の調査報告をきっかけに、皆さんの地域の氏神さんや菩提寺の建物を見直していただければ幸いです。

■はじめに

地元の人々のよりどころとして、大事にされてきた社寺建築はその地域の歴史や文化を知る有用な手掛かりです。
これまでの徳島県内ならびに佐那河内の社寺建築調査からみえてきたものをご紹介します。

チラシに掲載した写真から



秋葉神社（丸田）

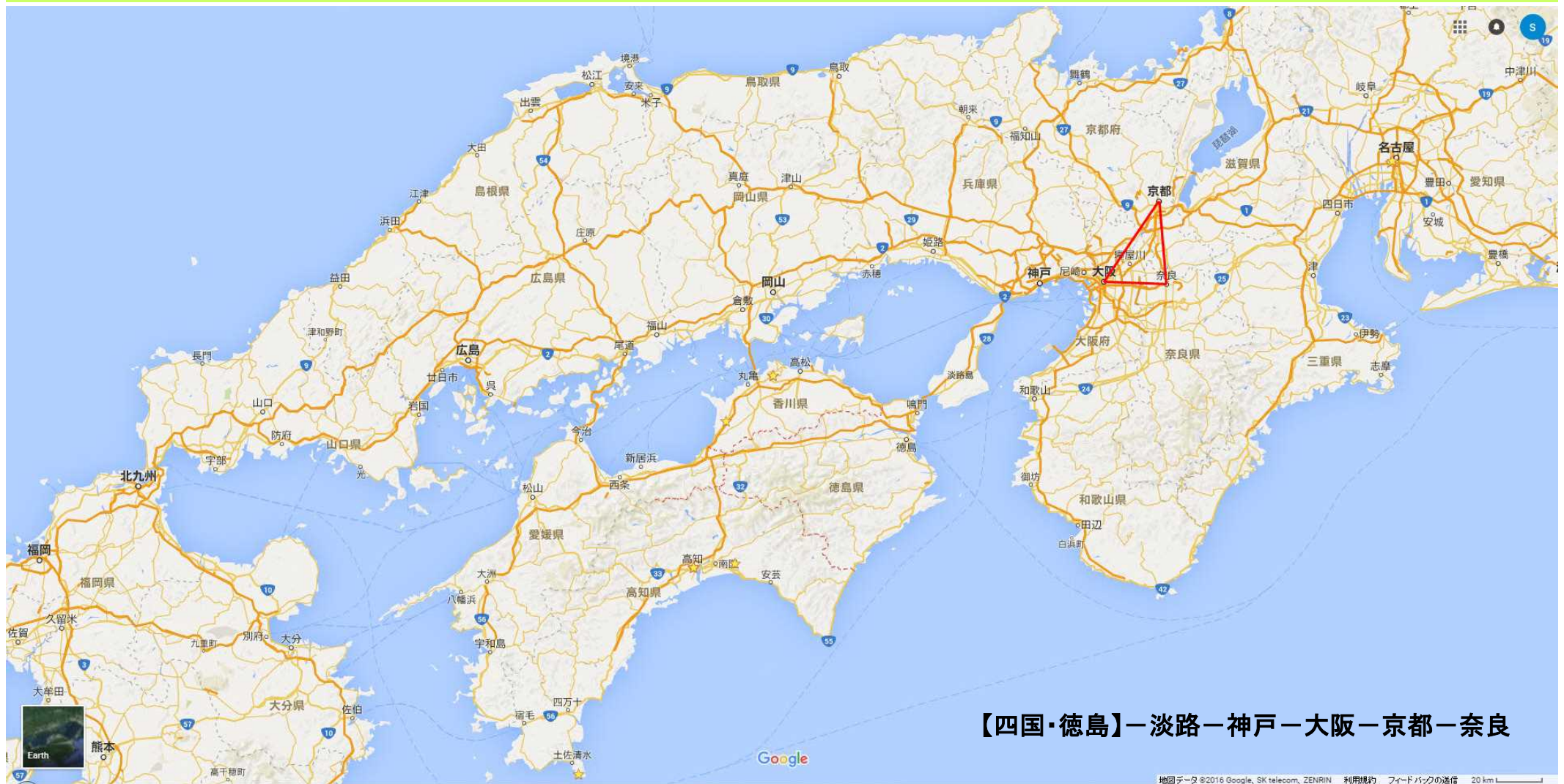


滝ノ宮神社・杉ノ宮神社（根郷）



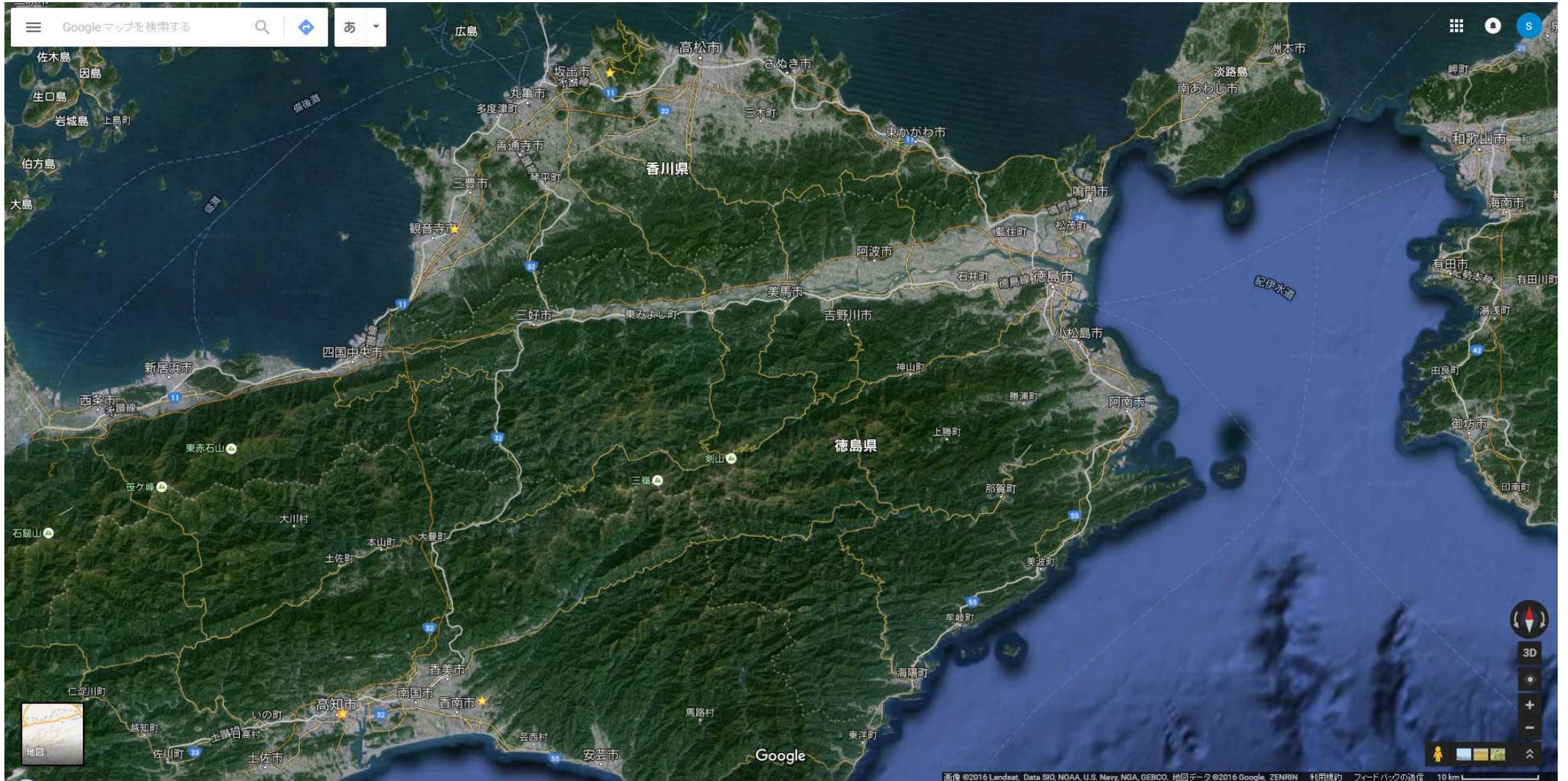
薬師庵（中辺）

徳島ってどんなところ？ 位置



奈良・京都・大阪・神戸に意外に近い

徳島ってどんなところ？ 地形



衛星写真で見ると 緑(山)が多い

徳島ってどんなところ？ 絵地図



□阿波・淡路国絵図の世界

編集・発行:徳島市立德島城博物館_2007.3月

・阿波国図 明治3年(1870)実測分間絵図 編集図
徳島市立德島城博物館蔵

絵地図を見ると 山と川とわずかに平野

徳島ってどんなところ？ 地形：河川



徳島県内の河川図

意外に川が多い

徳島ってどんなところ？ 絵地図



□阿波・淡路国絵図の世界

編集・発行: 徳島市立徳島城博物館 2007.3月

・阿波国大絵図 18世紀後半 手書き見取図 個人蔵

絵地図を見ると 山と川ばかり

そもそも、徳島ってどんなところ？歴史 古代

古くは阿波国といわれ、阿波の範囲は今の徳島県の行政区域と一致している。北・西・南に高い山地がある。

吉野川流域に粟国あわのくに（北方：畑作が中心で粟を植え麻を栽培）があり、

勝浦川・那賀川流域に長国ながのくに（南方：水田耕作と海岸での漁業）があり、

大化の改新後、大宝律令(701)体制下、二つの国が合一し、名方*・板野*・粟・麻植・美馬・勝浦・那賀*の7郡によって構成されていたという。

名方郡(なかたのこおり、なかたぐん)は、古代の阿波国(現 徳島県)にあった郡で、阿波国の国府が置かれていた。

寛平8年(896年)に東部が名東郡、西部が名西郡に分割された。

徳島ってどんなところ？歴史 古代

県内は山が多く、古くから利用されてきた。
剣山地*の北斜面や讃岐(阿讃)山地の南斜面には、数段の高地平坦部があり、それを利用して家を建て集落をつくり、その周辺に畑を開き、麦や葉煙の栽培を中心とした山地農村が点在する。

中流域は、(複合)扇状地：脇町や阿波町を形成され、下流域は低地(平野)が広がる。那賀川流域では、流域沿いの比較的平(低)地部に集落が形成されている、

奈良時代阿波の国府(国司のいるところ)、平安時代荘園
平安後期平家一門の知行国

剣山地(つるぎさんち)は四国山地東部に属する剣山を最高峰とする山地である。南北幅15から25km、東西約60kmに及ぶ。

神社建築の流れと記録

自然神の崇拜

出雲大社・伊勢神宮などの信仰

仏教伝来 ※神仏混淆（奈良時代）

明治維新 ※神仏分離と廃仏毀釈（幕末～明治）

・向拝虹梁の錫杖彫りの有無

それ以降 …

神社の記録

- ・延喜式内社（平安時代の神社リスト）
- ・寛保御改神社帳（寛保1741～1743：江戸中期）
- ・阿波誌（文化年間1804～：続・阿波国懲古雑抄）
- ・神社庁 徳島県神社誌（昭和）
郷社，村社，無格社，（脇社），（摂社）

徳島ってどんなところ？歴史 古代 神社記録

延喜式(えんぎしき)は、平安時代中期に編纂された格式(律令の施行細則)で、三代格式の一つであり、律令の施行細則をまとめた法典である。

延喜5年(905)に編纂に着手し、延長5年(927)に完成

全国で、	官幣大社	198社	304座
	国幣大社	155社	188座
	官幣小社	375社	433座
	国幣小社	2133社	2207座

官幣大社は畿内に集中しているが、官幣小社は全て畿内に、国幣大社と国幣小社は全て畿外にある。

徳島ってどんなところ？歴史 古代 神社記録

- ①板野郡 4座(大1座:大麻比古神社・小3座)
- ②阿波郡 2座(並小) ③美馬郡 12座(並小)
- ④麻殖郡 8座(大1座:忌部神社・小7座)
- ⑤名方郡 9座(大1座・小8座) ⑥勝浦郡 8座(並小)
- ⑦那賀郡 7座(並小)

名方郡 9座(大1座:天石門別八倉比売神社ヤクラヒメ・小8座)

名方郡(なかたのこおり、なかたぐん)は、古代の阿波国(現 徳島県)にあった郡で、阿波国の国府が置かれていた。

寛平8年(896年)に東部が名東郡、西部が名西郡に分割された。

佐那河内村にある 延喜式に記載されている 国幣小社

御間都比古神社(ミマヅヒコノ) 式内小社 佐那河内村下モノミ石

徳島ってどんなところ？歴史 古代 神社記録

天石門別八倉比売神社 - ヤクラヒメノ 大 月次新嘗

- (論)八倉比売神社 徳島県徳島市国府町矢野 阿波国一宮 [3]
(論)上一宮大粟神社 徳島県名西郡神山町神領 阿波国一宮
(論)一宮神社 徳島県徳島市一宮町西丁 阿波国一宮

天石門別豊玉比売神社 - トヨタマヒメノ 小

- (論)天石門別豊玉比売神社 徳島県徳島市眉山町 春日神社境内 (元は徳島城内)
(論)豊玉姫神社 徳島県名西郡神山町神領 上一宮大粟神社境内社
(論)(合祀)猿田比古神社 徳島県名東郡佐那河内村下字高樋 大宮神社境内社

麻能等比古神社 マノ- 小

- (論)大麻比古神社 徳島県徳島市明神町
(論)桜間神社 徳島県名西郡石井町高川原
(論)(合祀)天神社 徳島県徳島市入田町天ノ原

和多都美豊玉比売神社 ワタツミトヨタマヒメノ 小

- (論)雨降神社 徳島県徳島市不動西町
(論)王子和多津美神社 徳島県徳島市国府町和田
(論)王子神社 徳島県名西郡石井町高原
(論)井上八幡神社[1] 徳島県徳島市国府町井戸北屋敷

徳島ってどんなところ？歴史 古代 神社記録

名方郡 9座(大1座・小8座)つづき

大御和神社 オホミワノ 小 徳島市国府町府中

天佐自能和氣神社 アマサシノワケノ 小 徳島市不動東町

御間都比古神社 ミマツヒコノ 小 名東郡佐那河内村下モノミ石

多祁御奈刀祢神社 タケミナトミ 小 名西郡石井町浦庄

意富門麻比売神社 オフトマ-オホ- 小 宅宮神社 徳島市上八万町上中筋

式外社

- ・『延喜式』神名帳の編纂当時に存在したが、同帳に記載の無い神社。
- ・国史見在社
- ・六国史に記載のある式外社。

徳島ってどんなところ？歴史 古代 神社記録

文献:神名 記事 比定社:社名 所在地 備考
葦稻葉神(葦稻羽神)『続日本紀』承和9年(842年)10月2日条ほか
葦稻葉神社@徳島県板野郡上板町神宅

白鳥神 『日本三代実録』貞観3年(861年)3月6日条
白鳥神社@名西郡石井町石井字白鳥

伊比良咩神 『日本三代実録』貞観14年(872年)11月29日条
伊比良咩神社@板野郡藍住町徳命

船尽比咩神 『日本三代実録』貞観14年(872年)11月29日条
船尽神社@名西郡神山町広野

白馬神 『日本三代実録』元慶7年(883年)12月2日条
白鳥神社@名西郡石井町石井字白鳥

埴生女屋神『日本三代実録』元慶7年(883年)12月28日条
埴生女屋神社@名西郡神山町神領

式外社

・『延喜式』神名帳の編纂当時に存在したが、同帳に記載の無い神社。

・国史見在社

・六国史に記載のある式外社。

徳島の政治の中心地の変遷

古代：**奈良・平安(京都)時代**

中心は現在の**徳島市国府**

国司・郡[郡司]と軍団・里[里長]・保・戸
國分寺(徳島市)と国分尼寺(石井町)

中世：**鎌倉時代中期～**

中心は**脇町岩倉城**

阿波守護：**小笠原(長房)氏** 三好・美馬を支配
もともと**信濃(長野)の人**

中世：**～鎌倉時代末期**

中心は**美馬町重清城**

阿波守護：**小笠原(長親)氏**

徳島の政治の中心地の変遷

中世：**室町時代初期**

中心は**土成町秋月**

阿波守護：**細川(和氏)氏**(三河国：愛知)の人

中世：**～室町時代・戦国時代**

中心は**藍住町勝瑞**

阿波守護：**細川氏と三好氏**(三好郡の小笠原氏が改姓)

三好長慶 畿内に勢力を維持

中世：**戦国末期**(一時期) **長宗我部氏**(土佐)による四国統治

中世：**安土桃山時代**→近世：**江戸時代**

中心は**小松島**→**徳島城**

阿波守：**蜂須賀氏**(尾張国：愛知)の人

近代→現代 県庁所在地：**徳島市**

建築年代について

神社調査における建築年代について

書籍（古い記録：村史・神社誌他）や**棟札**等から確認できるもの
以外は、**建築様式から推測**することとする

奈良・平安時代（古代）

鎌倉・室町・安土桃山時代（中世）

江戸時代（近世）

前期 1615～1660年

中期 1661～1750年

後期 1751～1829年

末期 1830～1867年 開国から終戦まで（近代）

明治時代 1868～1912年

大正時代 1912～1926年

昭和時代 1926～1988年 終戦後から（現代）

平成時代 1989～

■ 神社のなりたち

神様に降りてきてもらって、お祀りして、戻すところ: 祭場

磐境(いわさか)

神祭のための祭場。古代に神を迎え祭るために石囲い→玉垣(結界)

磐座(いわくら)

自然石を神霊が宿ると考えて祭祀対象とする巨岩 → 神を招くところ

むなかた

◆ 高宮祭場(宗像大社の祭場)

◆ 徳島県内: 口山字宮内の神明神社: 古代祭祀遺跡
(美馬市穴吹町口山字宮内の白人神社の奥社)

社殿が建立される以前の神社祭祀(さいし)庭上祭祀

● もともと建物は無かった鎮守の森

→ 祭場から社(やしろ): 社殿が生まれる 屋代(やしろ) → 社(やしろ)

社殿が建立される以前の神社祭祀(さいし) 庭上祭祀 *現在も神事に使われている



3社にそれぞれ以下の神を祀り、宗像三女神(宗像大神)と総称する。
沖津宮(おきつぐう) : 田心姫神・中津宮(なかつぐう) : 湍津姫神
辺津宮(へつぐう) : 市杵島姫神

古代祭祀遺跡と青石による石積拝殿



口山字宮内の神明神社：古代祭祀遺跡（口山字宮内の白人神社の奥社）

古代祭祀遺跡と青石による石積拝殿 (徳島県)

古代祭祀(さいし)遺跡

●穴吹町

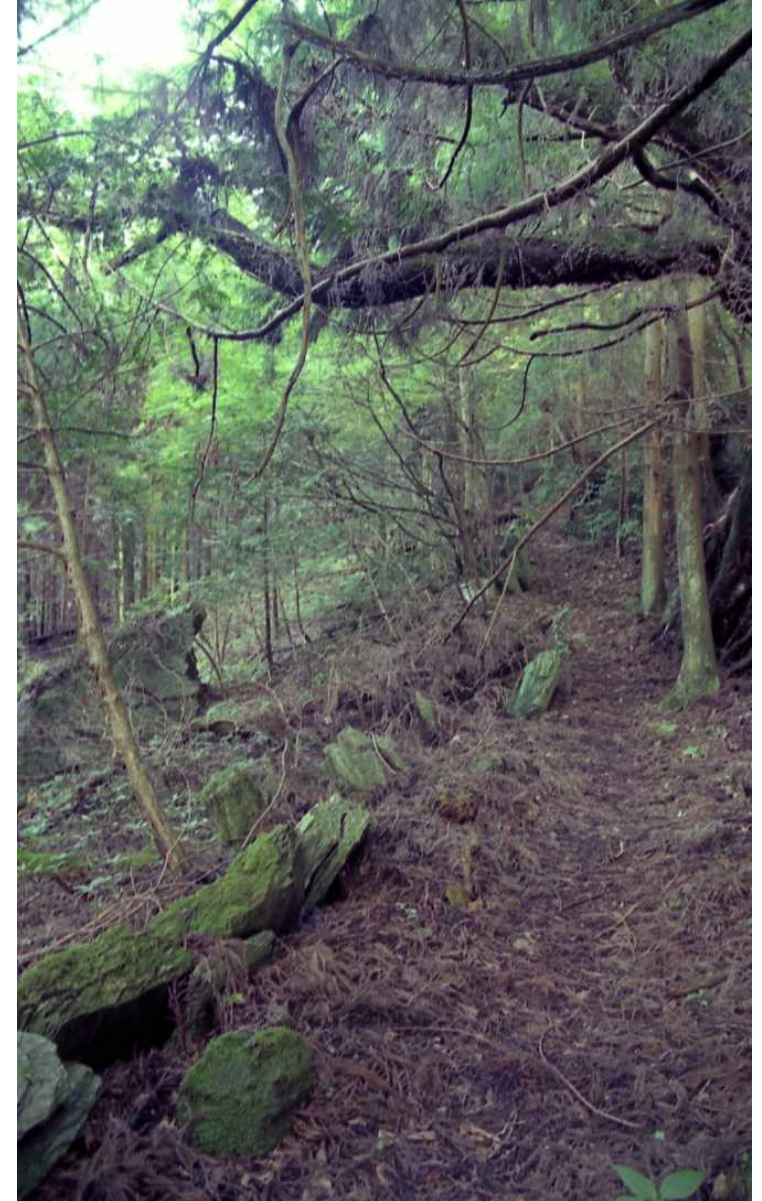
- ・口山字宮内の神明神社: 古代祭祀遺跡(口山字宮内の白人神社の奥社)
- ・古宮字平谷の石尾神社周辺の磐境(いわさか)、磐座(いわくら)
- ・古宮字平谷の石尾神社と露頭断崖 風穴

青石による石積拝殿

●井川町

- ・細野神社の石積み拝殿
- ・吹の地神社の石積み拝殿(地神さん)

古代祭祀遺跡と青石による石積拝殿



古宮字平谷の石尾神社周辺の磐境（いわさか）、磐座（いわくら）

古代祭祀遺跡と青石による石積拝殿



古宮字平谷の石尾神社と露頭断崖 風穴

古代祭祀遺跡と青石による石積拝殿



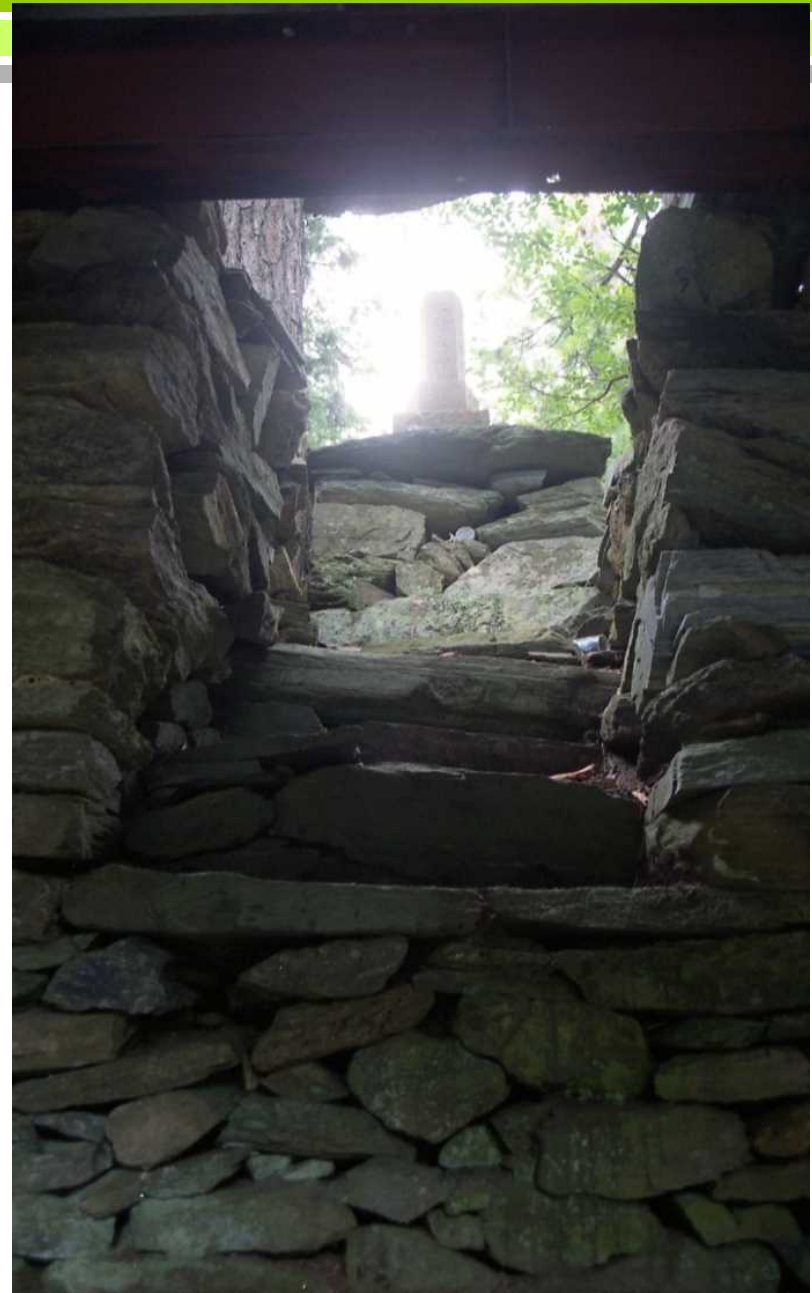
細野神社(上吹)の石積み拝殿

古代祭祀遺跡と青石による石積拝殿



細野神社(上吹)の石積み拝殿

古代祭祀遺跡と青石による石積拝殿



吹の地神社の石積み拝殿(地神さん)

■ 神社建築のなりたち

御祭神 神様

古来より、八百万の神、「天津神(あまつかみ)」と
「国津神(くにつかみ)」

それぞれに神々をお祀りする本社があり、
その建物の様式が、御霊分けされた御神様いっしょに全国に広
まる。

「天津神(あまつかみ):伊勢神宮」 渡来系

「国津神(くにつかみ):出雲大社」 土着系 といわれたりする

神社は、本殿がもっとも主要な建物である。





神様は「妻」から出入りする

神社本殿に寄棟造や宝形造は無い ☆妻が必須

本殿屋根が、妻入か、平入か？

■ 神社建築

神社本殿形式 その1

屋根の種類と入り口（主なもの）	
 切り妻屋根	 寄せむね屋根
 入り母屋根	 平入り 妻入り

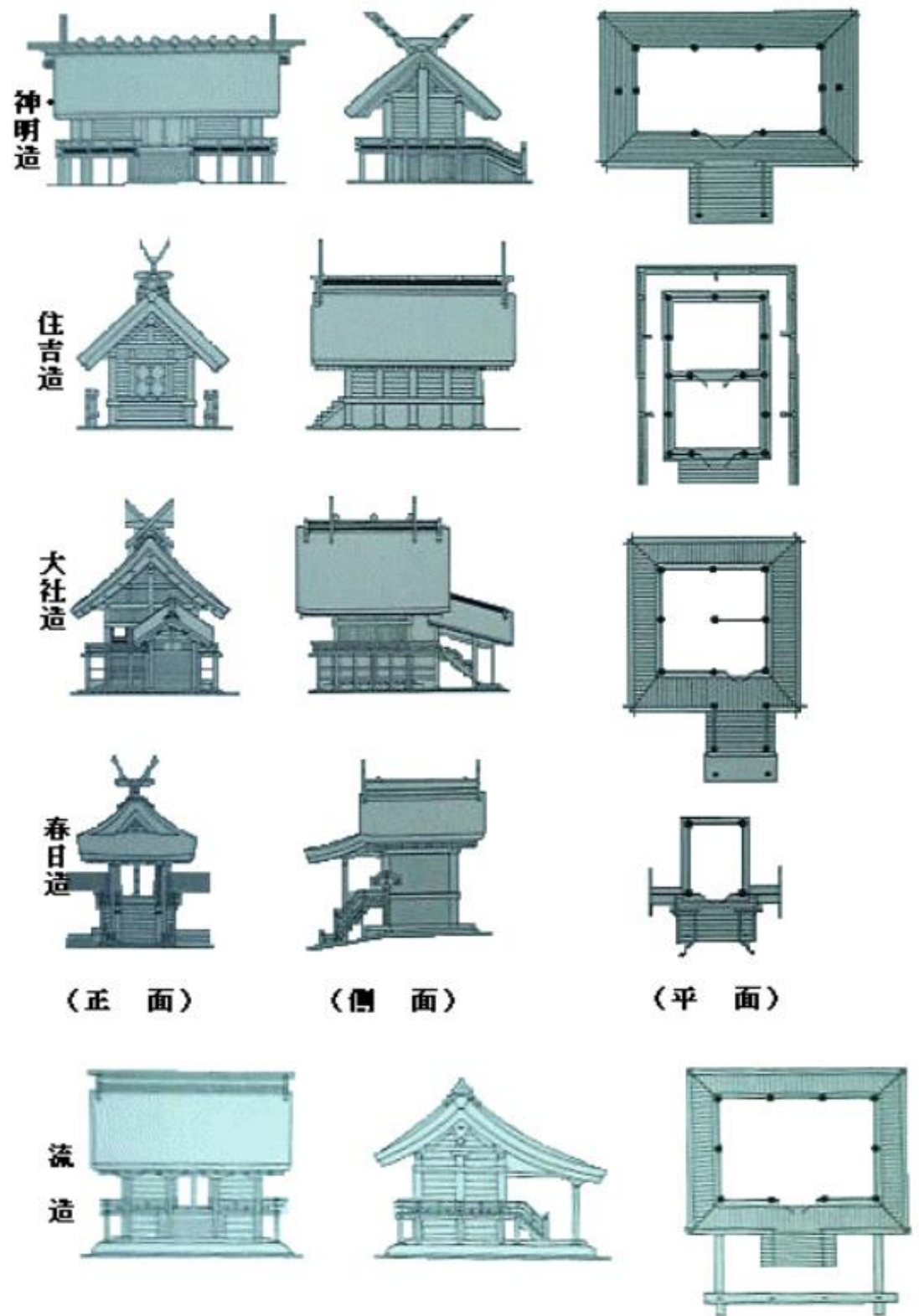
神明造（しんめいづくり）・・・切妻造、平入りで弥生時代の穀倉としての高床建築と類似する。伊勢神宮の本殿の様式である。

住吉造（すみよしづくり）・・・切妻造、妻入りで内部が内陣と外陣に分かれている。大阪市住吉大社本殿が代表的建築。

大社造（たいしゃづくり）・・・高床、切妻造、妻入りで入口は妻の右側にある。内部は四つに分かれ、神座はいちばん奥にある。

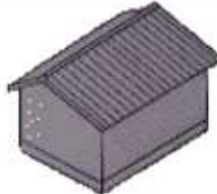


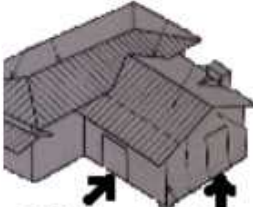
春日造（かすがづくり）・・・切妻造、妻入りで正面の階段上に社殿と同じ幅の階隠（はしかくし、ひさしのこと）の屋根をつけているのが特色。奈良春日大社の様式。

流造（ながれづくり）・・・神明造りから発達したもので、屋根は前のほうが長くのびて、向拝（正面のひさし）をおおい、母屋の屋根と向拝の屋根が一連のなだらかな曲線を描くようにつくってあるのが特色。代表的なのが京都の賀茂御祖神社本殿であるが日本の神社の約7割は流造であるといわれる。



■ 神社

神社本殿形式 その1

屋根の種類と入り口（主なもの）	
 切り妻屋根	 寄せむね屋根
 入り母屋屋根	 平入り 妻入り

神明造（しんめいづくり）・・・切妻造、平入りで弥生時代の穀倉としての高床建築と類似する。伊勢神宮の本殿の様式である。

住吉造（すみよしづくり）・・・切妻造、妻入りで内部が内陣と外陣に分かれている。大阪市住吉大社本殿が代表的建築。

大社造（たいしゃづくり）・・・高床、切妻造、妻入りで入口は妻の右側にある。内部は四つに分かれ、神座はいちばん奥にある。

春日造（かすがづくり）・・・切妻造、妻入りで正面の階段上に社殿と同じ幅の階隠（はしかくし、ひさしのこと）の屋根をつけているのが特色。奈良春日大社の様式。

流造（ながれづくり）・・・神明造りから発達したもので、屋根は前のほうが長くのびて、向拝（正面のひさし）をおおい、母屋の屋根と向拝の屋根が一連のなだらかな曲線を描くようにつくってあるのが特色。代表的なのが京都の賀茂御祖神社本殿であるが日本の神社の約7割は流造であるといわれる。

■寺院のなりたち

お寺とは 外来宗教

わこく

仏教伝来 (538年・6世紀半ば 欽明天皇期 倭国と呼ばれた時代)

お隣の朝鮮半島の**百濟**(くだら)から公伝

金銅の**釈迦如来像**と**経典**、**仏具**他が献上された

→推古(すいこ)天皇「**仏教興隆の詔**(みことのり)」

→日本で最初に建てられたお寺は飛鳥(明日香の豊浦)の
向原寺(むくはらじ)

もともとは別物であった神と仏が長い間に一体化

神仏習合(しゅうごう)・**神仏混淆**(こんこう)→明治の**神仏分離令**

神様、仏様、***様 国東半島などでは今も残色濃く残る

日本人の心のなかでは**区別が曖昧**になっていく

*お寺の境内に、**鎮守堂**(神様を祀る)をお祀りする

■寺院建築のなりたち

寺院の見方 宝形造 入母屋造 切妻造など * 屋根の掛け方

本堂様式

規模 柱間の数 三間堂 五間堂

桁行○間、梁間○間

七堂伽藍 寺が持つべき七つの建物

伽藍は、梵語からの語で、修行する場所、寺の建物をさす

・一般的に古くは、塔・金堂(*本堂)・講堂・鐘楼・経蔵

僧房(庫裡,方丈)・食(じき)堂(または中門)

後に宗派によって異なる

・禅宗では、三門・仏殿・法堂(はっとう)・庫裡・僧堂・浴室

・東司(とうす:便所)の七つ

・ちなみに真言宗では、大師堂や護摩堂(不動明王)など

・祀られる仏の○○堂

■社寺建築のなりたち

建築年代を探る手掛かり 様式や絵様・棟札・記録資料など

・様式：**和様**・**禅宗様(唐様からよう)**・**大仏様(天竺様てんじくよう)**など

★徳島県内に残る近世の建物：折衷様がほとんど

・雛形(ひながた)・絵様など：**時代毎に構造形式や意匠デザイン(流行)に微妙な違い(特徴)がみられる**→手掛かりにして建築年代を推測

・棟札

・記録資料 寺伝や歴史書、普請記録などの古文書

江戸幕府大棟梁：平内正信 安土桃山時代 紀伊国(和歌山県)出身の大工一族

匠明(しょうめい)平内一族の秘伝書で**木割**・**雛形(ひながた)**・**絵様**など

全国の幕府直轄領(天領)では、社寺を含む公共建築物を、普請奉行が差配してそれぞれの天領の宮大工達が手がけた

江戸時代 神社寺院建築にはそれぞれの地域の宮大工達が関わった

■社寺建築のなりたち

建築年代を
探る手掛かり

様式や絵様

絵様_長崎山
清水寺@長
崎市_寛文8
年(1668)_
大阪堺の大
工

特徴的な絵様—虹梁 14種



写真5：仏壇境中央間虹梁繰形



写真6：仏壇境脇間虹梁繰形



写真7：外陣虹梁繰形



写真8：外陣内側妻面虹梁繰形



写真9：裳階虹梁繰形1



写真10：裳階虹梁繰形2



写真11：裳階虹梁繰形3



写真12：裳階虹梁繰形4



写真13：裳階虹梁繰形5



写真14：裳階虹梁繰形6



写真15：裳階虹梁繰形7



写真16：裳階虹梁繰形8



写真17：裳階虹梁繰形9



写真18：裳階虹梁繰形10

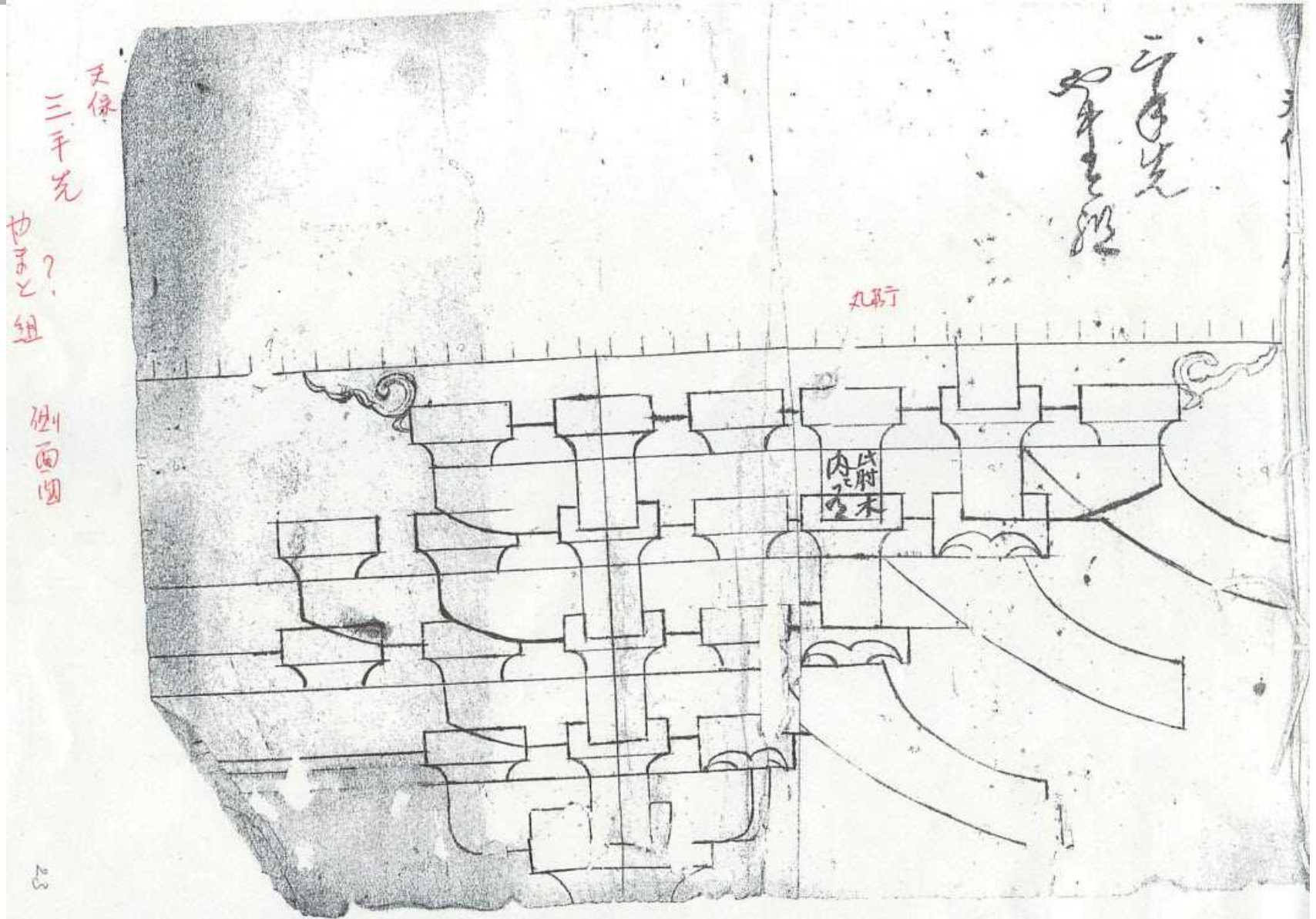
■社寺建築のなりたち

建築年代を
探る手掛かり

様式や絵様

天保_湯浅肥
後藤原通賀_
墨書き資料
@徳島

やまと とは
和様のこと?



神社普請の変遷

江戸中期までとそれ以降

もともとは、地元庄屋と村民：氏子と神社総代 神主が、地元の奉行へ建て替えを申し出る。

江戸中期までは、お抱え普請奉行（藤原姓の大工）などにより「雛形」が忠実に守られてきた。

江戸後期には、普請が民間の大工へ請負されることになり「雛形」を忠実に・・・が崩れていく

幕末から明治維新、※神仏分離と廃仏毀釈（錫杖彫り消る）
※神社建築を手掛ける民間大工によって、地域的特徴がみられるようになる

■江戸後期頃、社寺建築の建設が請負に

*幕府や諸藩の財政難によるものか？

これまでの世襲制が崩れて、それぞれの技術書など(木割書などの秘伝書が書き写され世に出はじめる)が分散。

秘伝を公開したり、弟子を育てることで、なんとか経営を維持。

庶民が、親方(棟梁)に弟子入り→お礼奉公→独立し、修業先の木割書や雛形などが書き写されて広まる。

いろんな流派の職人達が交流しながら、腕を競い合うようになる。

■ 江戸時代末期から、明治にかけて

江戸時代末期から、明治にかけて
大工道具とともに、大工技術がピークを迎える。

社寺建築の請負が一般的になり、
地域毎でそれぞれの神社や寺院で独自に普請が行われるようになる。

人や物の動きが一層盛んになり、それぞれの大工の交流・情報の交換がなされるようになっていく。

それぞれの地域性や特徴が見られるようになっていく。

■社寺建築のなりたち

徳島県内において神社本殿にみられる地域的特徴 その1

県南(那賀川流域)の四方八方の手先組物



木沢村 木頭の宇奈為神社境内 熊野本宮 安政3年(1856)建立 大工:湯浅岩蔵(1783-1862)

■ 神社建築の様式を調べる

1. 建物の名称

本殿(身舎(もや)と向拝)・幣殿・拝殿 狛犬・灯笼・玉垣・鳥居

1-1 建物の規模 本殿:小社殿 一間社 二間社 三間社・・・。

1-2 屋根の形状 徳島県内に多いのは

流造(両流造・折屋根)・春日造(王子造)・入母屋造・
権現造・神明造など

本殿向拝や拝殿向拝の破風:縹破風・唐破風・千鳥破風など

1-3 屋根葺き材料 板・桧皮(ひわだ)・こけら・銅板・鉄板葺き

■ 神社建築の様式を調べる

1-7 大工の系図・系統 *今後の調査成果に期待

県西の大工 直線肘木

県南の大工 四方八方の手先(那賀川流域を中心に)

最初は名前を覚えるだけで・・・たいへん。

1-8 まとめ

数多くの神社をみていくと、地域の特徴や建築年代の推測が出来るようになってくる。

県内外の国の重要文化財や国宝などは、その時代の特徴を鮮明に表しているものが多い。

■ 寺院・お堂・お庵建築の様式を調べる

1. 建物の名称 宗派によって異なる建物構成
本堂・方丈・庫裡・山門・三重塔・多宝塔など
- 1-1 建物の規模 本堂、諸堂の規模と間取り
三間堂 五間堂 七間堂
真言宗などの密教寺院(方形)・浄土真宗(横長な長方形)
- 1-2 屋根の形状 徳島県内に多いのは
宝形・寄棟・入母屋造
本堂向拝や諸堂向拝の破風: 縹破風・唐破風・千鳥破風など
- 1-3 屋根葺き材料 瓦葺・桧皮(ひわだ)・銅板など

神仏混淆: 同じ大工集団が、神社と寺院の建築に携わった

■時代の流れとともに

古代：～平安

中世：鎌倉～室町(戦国時代)

近世：安土桃山～江戸時代

近代：開国から終戦までを

大きな社会体制の変化によって区分

古代は天皇制の萌芽から荘園制

中世は封建制

近世は徳川家による全日本の支配

近代は法治による近代国家の建設

現代は戦後以降

昔は、様式を外れると首が飛んだ

その後、古い伝統的意匠の上に少しずつ、オリジナルな意匠が現われてくる。
よその地域へ出かけたり、行き来も盛んになっていく。

そして、戦後からしばらくして現代

最近建てられている神社建築を見ると、きちんと大工技術が継承されている
のか、わかって建てているのか……甚だ疑問？

県内の神社本殿にみられる地域的特徴 その1

特徴的な斗供(組物)の形態

県南(那賀川流域)の四方八方の手先組物

- 阿南市(福井町他)
- 美波町(日和佐町)
- 相生町
- 木沢村
- 上那賀町
- 海陽町
- 鷺敷町(阿波学会未調査)

- ・本殿身舎の組物が、45度の角度で手先(隅肘木)を出す
- ・身舎隅柱部で三方向、中央柱部で二方向、45度の角度で、四方八方に手先を出す複雑な構造形式の組物
- ・大工 湯浅岩蔵(幕末) 和歌山出身→木頭へ?
- ・氷を砕いたような彫刻



神社本殿にみられる地域的特徴 その1

県南(那賀川流域)の四方八方の手先組物



阿南市福井町 金比羅神社本殿

神社本殿にみられる地域的特徴 その1

県南(那賀川流域)の四方八方の手先組物



阿南市福井町 金比羅神社本殿

神社本殿にみられる地域的特徴 その1

県南(那賀川流域)の四方八方の手先組物



日和佐町 日和佐八幡神社本殿

神社本殿にみられる地域的特徴 その1

県南(那賀川流域)の四方八方の手先組物



日和佐町 玉木八幡神社本殿

神社本殿にみられる地域的特徴 その1

県南(那賀川流域)の四方八方の手先組物



日和佐町 登りの山神社本殿

神社本殿にみられる地域的特徴 その1

県南(那賀川流域)の四方八方の手先組物 ◆平野の辺川神社
文政11年(1828)棟札(氷状彫刻:有)



文政年間の辺川神社から幕末、明治へと受け継がれてきた

相生町 平野の辺川神社本殿

神社本殿にみられる地域的特徴 その1

県南(那賀川流域)の四方八方の手先組物 ◆花瀬の龍王神社(氷状彫刻:無)



相生町 花瀬の龍王神社本殿

神社本殿にみられる地域的特徴 その1

県南(那賀川流域)の四方八方の手先組物 ◆中雄の新田神社(氷状彫刻:有)



相生町 中雄(おんどり)平野の新田神社本殿

神社本殿にみられる地域的特徴 その1

県南(那賀川流域)の通常の組物

◇朝生(あさお)の八幡神社

辺川神社と同じ文政5年(1822)

大工上ヤ口彦左衛門藤原豊勝(町史棟札記録)



相生町 朝生(あさお)の八幡神社本殿

神社本殿にみられる地域的特徴 その1

県南(那賀川流域)の四方八方の手先組物



木沢村 木頭の宇奈為神社境内 熊野本宮

神社本殿にみられる地域的特徴 その1

県南(那賀川流域)の四方八方の手先組物



木沢村 掛盤の八幡神社本殿

神社本殿にみられる地域的特徴 その1

県南(那賀川流域) 大工 **湯浅岩蔵** ◇坂州の八幡神社 弘化3年(1846) 棟札
(四方八方の手先:無 ・ 氷状彫刻:有)



木沢村 坂州の八幡神社本殿

神社本殿にみられる地域的特徴 その1

県南(那賀川流域) 大工 **湯浅岩蔵** ◇木頭の宇奈為神社 八社宮本殿
安政3年(1856)棟札 二間社流造(見世棚造)折屋根
(四方八方の手先:無 ・ 氷状彫刻:無)



木頭の宇奈為神社本殿ほか4宮 湯浅岩蔵(岩三)による再建
木沢村 木頭の宇奈為神社 八社宮本殿

神社本殿にみられる地域的特徴 その2

県西の直線肘木や通し肘木による組物

◆猿坂の弁天神社本殿 棟札:明治28年(1895)建立

大工:同所 長江口太郎重春・長江兼吉重利、三好郡太刀野 千葉浅吉、郡里村 高田宇平



美馬町 猿坂の弁天神社本殿

神社本殿にみられる地域的特徴 その2

県西の直線肘木や通し肘木による組物

◆丸山の杉尾神社本殿 棟札:明治35年(1902)再建

大工:三好郡三野村大字三加茂村・桂萬吉高光、同 重守、藤島林左工門



美馬町 丸山の杉尾神社本殿

神社本殿にみられる地域的特徴 その2

県西の直線肘木や通し肘木による組物

◇明治24(1891)直線肘木(腰組共)、頭貫木鼻には通常手法の彫刻



半田町 石堂神社本殿(町指定)

神社本殿にみられる地域的特徴 その2

県西の直線肘木や通し肘木による組物

◆三野町にある本殿(身舎)組物 直線肘木を持つ社

○太刀野山の出羽(いづは)神社本殿

○太刀野山の三所神社

○太刀野山の奥宮神社 明治27年(1894) 棟札

大工 太刀野村 佐賀山文平

小工: 吉岡佐平・田岡久太郎・佐賀山安平・千葉藤吉・木挽 林多平 他

○太刀野の八坂神社

○太刀野の日吉神社

○芝生の武大神社

○清水西の宮内神社

それ以外の特徴

・拝殿がせいがい造り(出し桁造り: 軒を深くする)、直線的な肘木、台輪省略

神社本殿にみられる地域的特徴 その2

県西の直線肘木や通し肘木による組物



三野町 太刀野山の三所神社

神社本殿にみられる地域的特徴 その2

県西の直線肘木や通し肘木による組物



棟札: 明治27 大工: 太刀野村 佐賀山文平 ほか

三野町 太刀野山の奥宮神社

神社本殿にみられる地域的特徴 その2

県西の直線肘木や通し肘木による組物(彫刻を施さない切り放しの頭貫木鼻

◆井内谷の馬岡新田神社 明治16年(1883) 大工 太刀野村 千葉春太、佐賀山重平(棟札)

●井内谷の八幡神社 ●武大神社



井川町 井内谷の馬岡新田神社本殿

神社本殿にみられる地域的特徴 その2

県西の直線肘木や通し肘木による組物



井川町 辻の楠神社本殿

神社本殿にみられる地域的特徴 その2

県西の直線肘木や通し肘木による組物



東祖谷 元井の牛頭神社本殿

神社本殿にみられる地域的特徴 その2

県西の直線肘木や通し肘木による組物



東祖谷 安佐の蟻宮神社本殿

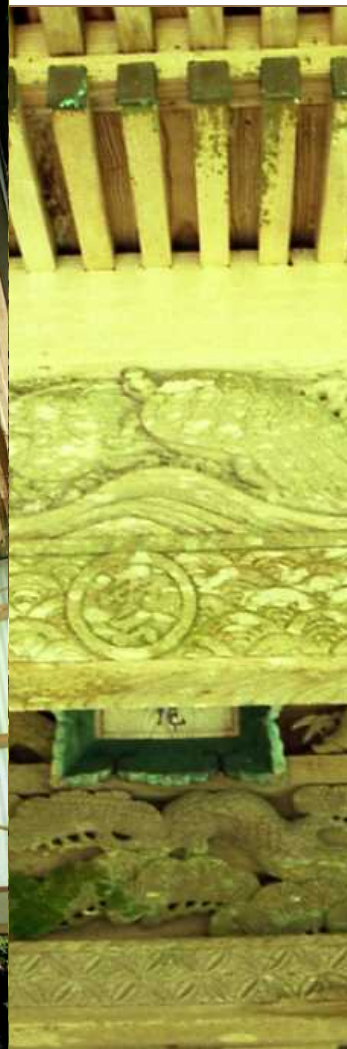
神社本殿にみられる地域的特徴 その3

地紋彫された本殿

神山町 大工:高橋永八 明治期(町指定)

○悲願寺境内の十二社神社

●新田八幡



神山町 悲願寺境内の十二社神社本殿

神社本殿にみられる地域的特徴 その3

地紋彫された本殿 神山町 大工:高橋永八 明治期(町指定) ○正八幡神社



神山町 上分上山の正八幡神社本殿

神社本殿にみられる地域的特徴 その4

ユニークな形をした龍の木鼻 ◆三好市東祖谷

○釣井の三所神社本殿

(棟札:明治9年(1876)再建 当初材が多く用いられている)

○久保の十二所神社

●栗枝渡の八幡神社

○下瀬の黒岡神社

●大西の新田神社

○久保の五社神社

●釣井の五社(初志)神社



向拝 頭貫木鼻 (龍)

東祖谷 釣井の三所神社本殿

神社本殿にみられる地域的特徴 その4

ユニークな形をした龍の木鼻

◆三好市東祖谷



向拝 頭貫木鼻 (龍)

東祖谷 久保の五社神社本殿

東祖谷 下瀬の黒岡神社本殿

歴史的建造物の文化財的評価：参考資料

穴吹町 調子野の御崎神社本殿

建築年代が古く、一通り整っていて、評価が受けられる。



穴吹町 調子野の御崎神社本殿 様式から江戸前期から室町後期に遡る？(推定)

お堂（氏堂：うじどう）とお庵（居住）

◆古くは鎌倉・室町時代～江戸時代初中期(ピーク)～

お堂建築は、修験者の信仰の山である**剣山を頂点として、その周りの山間部**に多く(一小字ごとに)分布する。正面には仏像が安置され、地域住民の信仰の中心となっていた。(先祖供養や盆踊り)

- ・お堂の**本尊仏**の名をとった、「地蔵堂」や「阿弥陀堂」
- ・地域の**集落の名前**をとった、「川見堂」など
- ・**建物の形態**から、「四ツ足堂」や
- ・**地形上**から「峯のお堂」、「辻堂」などと呼ばれながら親しまれてきた。

建物の形式、居住者の有無等から、お堂または庵と呼び

また、お庵は平坦地に多く、北岸山間部に浄土真宗の説教所などもある。

ほとんどが、**木造三間堂の宝形屋根**や**寄棟屋根**で、まれに省略型の一間堂や二間堂もみられる。ここでいう「間」は、柱の間の数であり、柱間の寸法が1mでも3mであっても一間としてあつかう。**堂内に棟札が残っている。**

お堂（氏堂：うじどう）とお庵（居住）

◆お堂の形態

外壁は、剣山の分水嶺を境に北部と南部と西部で地域的な傾向がみられる。
北部は四方吹きさらし、南部は四方を壁で囲い、西部はその両方が混合分布する。ともに床を張って正面に仏壇を置き、本尊を祀る。
落とし込み工法や出桁により軒を深くしたものも見られる。

屋根はもともと茅葺き屋根であったが、現在では、トタンや銅板が巻かれたり、切妻屋根となり、雨戸を入れて集会所などに変貌するものも多い。

お堂は、数百年の間、地域の宗教、文化の中心として、先祖の供養、祈禱、護摩供養、盆踊りなどが行われたり、また娯楽の場として集会所のように利用されてきた。神社の近くに建つものも多く、明治初期以前の神仏習合の名残と考えられる。

昭和30年代以降は、社会環境の変化や過疎化が進み、お堂での行事や建物の維持が困難な状況になりはじめ、現在もその状況は続いている。

お堂に集まって、みんなで涼んでいる



1998阿波学会穴吹町_21.阿弥陀堂8.1_口山字田方

お堂（氏堂：うじどう）



開放的なお堂（旧一宇村）

コキ柱・落とし込み工法

柱の昼間部にある広い横架材を、柱の断面を小さくして貫通させ上部の横架材まで通す「コキ柱」が使われており、「落とし込み工法」とも呼ばれている。

また、軒を深くするために、梁を持ち出して桁を受けるセイガイ造り(出し桁造りとも言う)が見られるのも特徴。

お堂（氏堂：うじどう）



葛生の観音堂 方三間宝形屋根
三方吹きさらし三間堂（穴吹町古宮1998）



横石堂 方三間宝形造 三方吹きさらし三間堂(木屋平村
貢2007)



古井の地藏堂 切妻屋根 美郷では三方開放型が多い
がここは、腰長押から内法長押まで縦格子
三間堂(美郷村2003)



西山の阿弥陀堂 方三間宝形造 四方を壁と雨戸で
囲った閉鎖型（東祖谷2006）

お堂（氏堂：うじどう）



榎木谷の地藏堂(百嘉堂)正面入母屋背面切妻屋根 間口三間×奥行二間 閉鎖型 (相生町2000)



出羽の阿弥陀堂 宝形造 間口三間×奥行二間 閉鎖型 (木沢村2004)



方三間宝形造 三方吹きさらし三間堂(一宇村2000)



方三間宝形造 三方吹きさらし三間堂(貞光と半田境2010)

その他 神社境内で特徴を紐解くキーワード

■通夜堂

- ・海南町 小川お座下檜木屋 五所神社の農村舞台のミセづくり(上下ぶ帳)
通夜堂:割拝殿(和歌山や大阪堺市の桜井神社:国宝等で見られる)
和歌山との海上交通による交流が見られる。
通夜堂＝農村舞台と呼ばれる(県南ではよくある)

■農村舞台

■随神像

- ・半田町 随神像(撫養石・神社境内の入り口付近に雨ざらし)
- ・土成町 随神門と随神像
- ・由岐町 拝殿に随神安置
- ・神山町 随神門と随神像
- ・旧木屋平 本殿脇に随神像を安置1社
- ・美郷町 本殿脇に随神像2社

■地神さん

- ・東祖谷 境内に地神塔(お地鎮さん)を祀るところは少なかった

またの機会に・・・報告します

県内の神社境内で特徴を紐解くキーワード 農村舞台



那賀町拝宮・轟神社



那賀町上那賀・拝宮白人神社



徳島市・犬飼五王神社

県内の神社境内で特徴を紐解くキーワード 地神さん



・東祖谷 他地域に比べ境内に地神塔(お地鎮さん)を祀るところは少なかった

1.佐那河内村の社寺建築 これまでの調査

1. これまでの社寺建築(神社・寺院・堂や庵など)調査 佐那河内村における既往の社寺建築調査と報告書

- ・徳島県の近世社寺建築緊急調査
徳島県教育委員会 H2年(1990)3月発行
 - ・阿波の寺社建築H9年(1997)
徳島県建築士会 阿波のまちなみ研究会発行
 - ・阿波学会総合学術調査報告紀要第48号(佐那河内村)
発行年月: H14年(2002)年3月
前回の阿波学会総合学術調査においても、社寺建築は悉皆調査されている。
- ◎社寺建築は、さまざまな事由により更新されながら現在に至っている

2. 今回の調査状況と着目点

- ・既往の調査から、すでに20年が経過。
- ・今の社寺建築の状況を調査記録する
- ・社寺建築班は、悉皆(全部調べる)を目標に、現地調査に入る。社寺建築の所在は、町史や神社誌などからリストを作成し、住宅地図等で確認しながらは現地調査を行っている。

小さな祠(ほこら)やお堂は、住宅地図には載っていない。
↑新型コロナ自粛により、現地での声掛けや聞き取りなどに制約が確認できるものはすべて実際に足を運んで見た上で、**文化的な価値のあるものを抽出**して、詳細調査を行う。

佐那河内村の社寺建築にみられる傾向と他地域との違いや特筆すべき社寺建築物を抽出し、その特徴をまとめることで、**身近な地域の文化資産**として**社寺建築**を再認識していただければ幸いです。

2. 佐那河内村の社寺建築案内図

今回調査を行った社寺建築調査リスト番号 (神社・寺院・お堂とお庵)

- | | |
|------------|-----------------|
| 1. 嵯峨天一神社 | 18. 日吉大権現 |
| 2. 大宮八幡神社 | 19. 安芸守神社 (橋神社) |
| 3. 御間都比古神社 | A. 宝蔵寺 |
| 4. 天岩戸別神社 | B. 長願寺 |
| 5. 朝宮神社 | C. 青蓮寺 |
| 6. 妙見神社 | D. 徳門寺 |
| 7. 杉ノ宮神社 | a. 観音庵 (秩父観音) |
| 8. 滝ノ宮神社 | b. 薬師庵 |
| 9. 妙見神社 | c. 観音庵 |
| 10. 仁井田神社 | d. 地藏堂 |
| 11. 若宮神社 | e. 正覚院 |
| 12. 八坂神社 | f. 阿弥陀庵 |
| 13. 秋葉神社 | |
| 14. 八王子神社 | |
| 15. 若宮神社 | |
| 16. 六社神社 | |
| 17. 幸神社 | |



図6 嵯峨天一神社 本殿

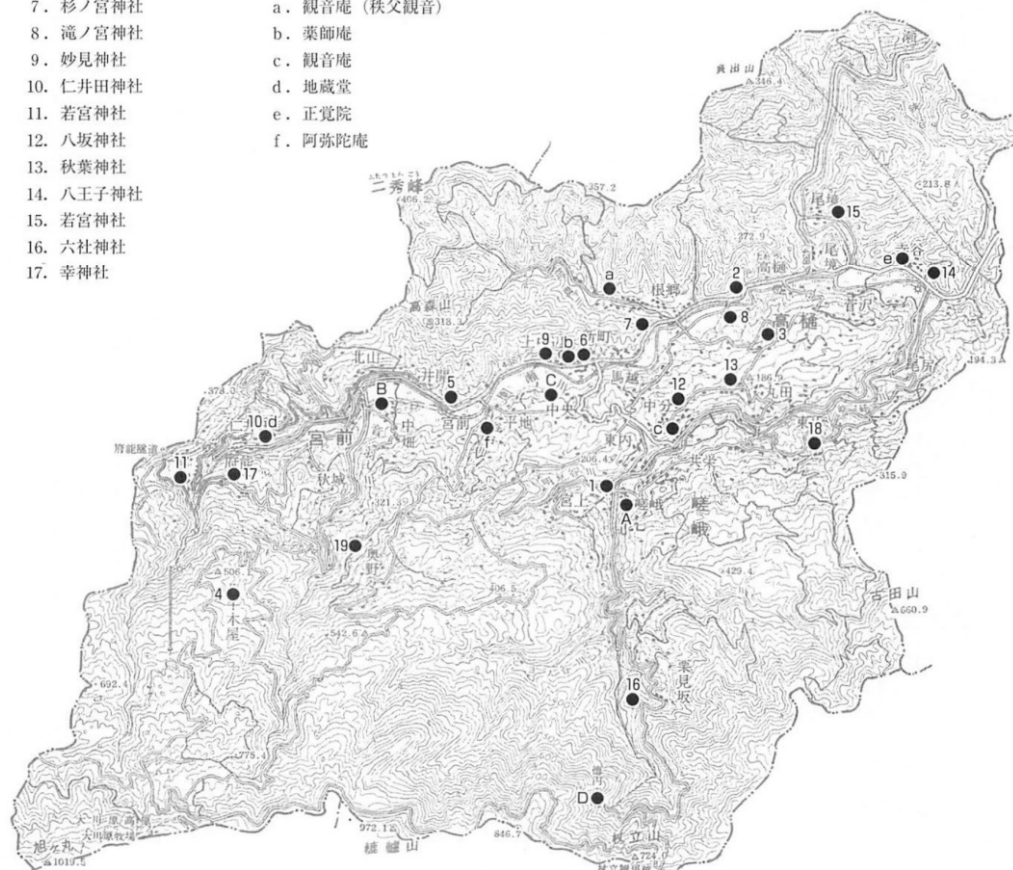


図5 佐那河内村の社寺建築案内図 (基図は「佐那河内村全図」)

3. 今回の調査概要 ① 既往調査とその後

徳島県近世社寺建築緊急調査報告書

(奈良国立文化財研究所編(1990)徳島県教育委員会)

リストアップされた建物 二次調査まで (1件)

・朝宮神社本殿 上 宮前 18世紀中期

・宝蔵寺鐘楼門(一次調査まで) 山門・庫裡 H12改築

朝宮神社本殿は、この調査管理されていた。

今回の調査で、上記の他にた社寺が小松島市内に残った。また、近代(幕末から明治、た多宝塔などの堂宇を確認



3. 今回の調査概要 ②用語の解説について

調査の成果は、今回の紀要にまとめました。
平易な文章を心がけたが、**専門用語**が多いため、
わからない名称などは、**古建築事典**や**グーグル先生**などに
助けを求めて一読いただければ幸いです。

あると便利なハンドブック *参考資料

歴史散歩便利帳 山川出版 編集:野呂肖生 890円(税別)など

3. 今回の調査概要

佐那河内村の神社本殿と寺院とお堂

佐那河内村の神社

神社本殿の様式 流造 折屋根 大和葺き 覆屋
神社本殿の規模 三間社が一社 他は一間社 小社殿(多い)

佐那河内村の寺院 (4箇所 真言宗:3 浄土宗:1)

寺院建築は、比較的新しい建物が多い

大工:二反地光雲(徳島市多家良町) 鷲の門 と 山崎良春

佐那河内村のお堂 (6箇所)

お堂は閉鎖型 比較的古い建物が残っている * 板碑

詳しくは、令和6年春の阿波学会総合学術調査紀要報告で

3. 今回の調査概要

佐那河内村の神社本殿と寺院とお堂

佐那河内村の神社

神社本殿の様式
神社本殿の規模

流造（折屋根） 大和葺き 覆屋
三間社が一社 他は一間社 小社殿（多い）

規模の小さな神社本殿 事例（県外）

ほんれんじばんじんどう とうし
本蓮寺番神堂 東祠（国重要文化財）

一間社流造、こけら葺

岡山県瀬戸内市牛窓町牛窓
室町後期 1468年



3. 今回の調査概要 神社本殿



3. 今回の調査概要 神社本殿



3. 今回の調査概要 神社本殿



朝宮神社上 宮前 (旧村社) 230805⑨_5 *本殿の写真は前回2001調査当時のもの

3. 今回の調査概要 神社本殿



3. 今回の調査概要 神社本殿



3. 今回の調査概要 神社本殿



3. 今回の調査概要 神社本殿



3. 今回の調査概要

神社本殿



3. 今回の調査概要

神社本殿



3. 今回の調査概要 杉宮神社本殿 平成13年(2001)

下字根郷芝生

*2001調査当時



この社は旧社格において小社で、町の東北部、下字根郷芝生に鎮座する、六社参りの一社である。

創建は不詳であるが、寛保御改神社帳に杉宮八幡宮の記述があるほか、棟札が9枚あり、一番古い棟札は享和4年(1719)のものであった。現在の本殿は棟札より文政6年(1823年)に建立されたものであったと考えられる。

その52年後の明治8年(1875)に覆屋を設け、その後、昭和10年(1935)に本殿、覆屋が修繕されていた。

本殿は覆屋の中にあリ、小規模な一間社流造(折屋根)で、板張の大和葺きとなっていた。 *2001調査当時

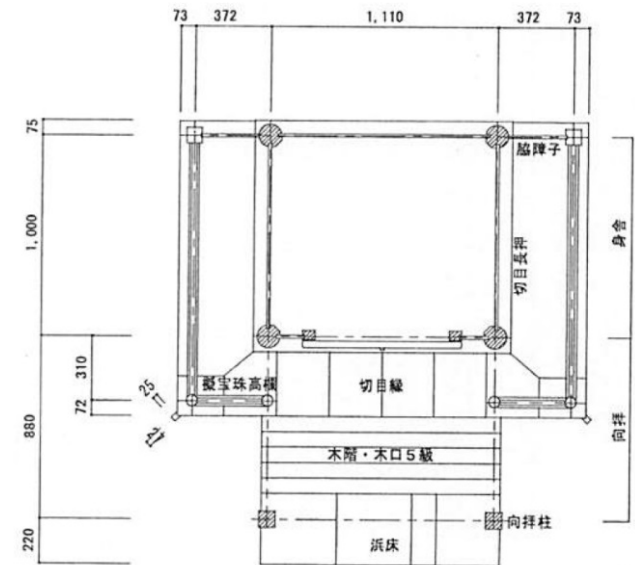


図10 本殿平面図

3. 今回の調査概要 杉宮神社本殿 平成13年(2001)

下字根郷芝生

*2001調査当時



3. 今回の調査概要

寺院建築



宝蔵寺 大師堂 下 230806⑥_A 江戸時代後期 宝暦14年(1764)建立

3. 今回の調査概要 お堂



地蔵堂_上 字仁井田89 230805⑥_d

3. 今回の調査概要 寺院とお堂



観音庵(秩父観音)_下 根郷字日浦1 230806⑪_a

3. 今回の調査概要 寺院とお堂



薬師庵_下 字中辺 230806(14)_b 明治21年(1888)建立

3.調査で見えてきたこと

これまでの社寺建築調査を通じて、みえてきたもの

社寺建築をみていると、その土地が歩んできた歴史が垣間見られる。

神社(氏神)、檀那(だんな)寺の建物に、ひとつとして同じモノはない。

神社本殿では、流造や春日造などといった様式はあるが、使われている材料、部材の構成、寸法・規模、細部の意匠などは異なる。

また、棟札をたどることで、建立から、その地域を襲った台風などの災害により、建物が更新(修繕・屋根葺替え)されたり、再興されたり。土地の世話役や大工、別当職(寺院の住職)や神主などの名前が墨書きされている。

3.調査で見えてきたこと

神社(氏神)は、どのような祭神:神様を祀(まつ)るか。

海陽町全域には御崎神社(祭神:猿田彦)が数多くみられる。

猿田彦は道先案内・航海安全の神様とされる。

海部(かいふ・あまべ)の民の心のよろどころだったのであろうか。

このように、人が集まり集落ができると、まず神社が。

そこのふさわしい神様(必要とされる・大切に思う・地域の課題を解消してくれる)を祀る。

次に、僧侶が招かれ、寺院ができる。

その宗派や僧侶は、その土地の人々が相談して選ばれた。

山間部では氏堂が、今で言う集会所としての機能を果たした。

海辺の港町では、様々な宗派の寺院がみられる。**鳴門市・小松島市など**

3.調査で見えてきたこと

冠婚葬祭は、自宅と集落の氏神、寺、氏堂で助け合いながら行われた。

地域の人々によって引き継がれてきた、暮らしの歴史がそこにある。

佐那河内の神社本殿は、徳島県内の奈良的印象を感じる。

今回の調査で、20年前詳細調査に入った神社本殿が、姿を消し、新たに合祀されてた。

合祀というのは、明治の国を挙げての合祀令(らんまんにも出てきた)で、神社の合併のこと。

神社は集落の小高いところにあり、高齢になるとなかなか参拝もままならず、集落の人口減少のすすむところでは、維持するのも大変。

3.調査で見えてきたこと

その建物の歴史的、文化的価値を知って欲しい。
その土地の固有性と歴史を体現する生き証人のようなもの。
引き継ぎ、誇りに思っ暮らして欲しい。

何でそこにあるのか、これまでそこに住んできた(先人・ご先祖達)人々の暮らし(なりわい)・歴史・文化の詰まった共有財産。

どうして、今のような建物になったのか。

地域毎の歴史や文化は引き継がれてきたはず。
口伝によって、風習や、お祭りやさまざまな年中行事として。

戦前までの地域の相互助け合い、循環型エコ社会から、経済と個人が優先される消費社会(ゆるやかな破壊)

3.調査で見えてきたこと

茅葺きの民家と氏堂にトタンが巻かれるようになった頃から、徐々に人々の考え方や価値観は変わっていったのだろうか。

それに今回、その流れに拍車をかけたのが、新型コロナの流行。人々の接触や集い、祭りなどの多くの年中行事が中止になってしまった。

ずーっと続けてきたモノがパタッと止まって3年。なかなか元の状態に戻すのは大変だと思う。

さて、どうする！

社寺建築は これまで何度も更新され、今に至っている

これからも地域固有の文化がそこに住む人々のつながりによって更新されながら、後の世に引き継がれていく

3.調査で見えてきたこと

アフターコロナ対策が急務

地域毎で、地域固有の文化が後の世まで、引き継がれるための方策を考える

特別なことではなく、
今の世の中で求められる、「本当の豊かさ」とは何か？

社寺建築は これまで何度も更新され、今に至っている
これからも地域固有の文化がそこに住む人々のつながりによって
更新されながら、後の世に引き継がれていく これからもずっと。

そのためにも、今ある地域の社寺建築などを通して、歴史・文化的な
価値を再認識するきっかけにして欲しい

社寺建築とは時代の文化を象徴するものである。
思想と学問を父として、
産業と技術を母として
生まれ出ずる子供が建築である。

また、過去の深い根から芽生え、
後世幾代までも残るものは社寺である。

～「丈六寺の姿」より～

ご静聴ありがとうございました

調査へのご協力、
ありがとうございました。



完